



備えあれば憂いなし

今年も早くも半年が過ぎようとしています。年を重ねると月日の流れが早く感じるようになってくると言います。私が、私の場合は最近特にそう思うようになっていました。えっ！もう金曜日？ あれ、もう月末？ と、この執筆期限に追われています。何ともあれ時間を有意義に使ってきたいですね。皆さまはいかがですか？

さて、先月の広報に皆さまの市政に関する声をお寄せいただきました。市長への手紙と、まちづくりご意見箱について掲載したところ、早速多くのご意見を頂戴し、誠にありがとうございます。これからのまちづくりに活かしてまいりますとともに、引き続きご意見をお待ちしております。また、市民の皆さまの声を直接私がお聞きするための、新たな広聴活動も実施してまいりますので、今しばらくお待ちください。

これから梅雨の時期に入りますが、

今月号4ページでもお知らせしました通り、近年では豪雨による土砂災害なども多発しております。私も災害対応力強化のための研修を受講いたします。これは指導員とマンツーマンで、発災の恐れがある段階から発災後に起こりうるさまざまな状況について、長としての判断、指示、対応を行う研修です。しかも状況は事前に知らされず、その場での急な判断を求められるもので、実際の災害時同様の緊張感が保たれています。刻々と変化する状況をどう判断するか、皆さまの生命・身体・財産の保護を預かるものとして、しっかり学んでまいります。また過日、銚子地方気象台の台長とのホットラインを結び、気象に関する特別警報が発せられる時や甚大な災害が発生する恐れがある場合に、私の携帯に直接お電話を頂き、いち早く対応が取れるようになりました。備えあれば憂いなし、皆さまも日ごろからの災害に

対する備えをよろしく願っています。

それでは梅雨のジメジメも吹き飛ばす明るい話題を提供できるような今月もはりきってまいります。

匝瑳市長 宮内康幸

小高を歩く

開山塚

市内には江戸時代から主要な道路として利用され、今なお当時の名残が感じられるものがいくつもあります。

小高（飯高地）集落の中央を通過して、坂（現在の多古町坂）への道路も古道の雰囲気を感じるものといえるでしょう。4月号で紹介した「黄門桜」近くから小高集落への入り口付近と、八坂神社裏の道の大樹の下にも道祖神がまつられその名



小高にある開山塚

チ、正面に「当山（妙長寺）開基 本妙院日善聖人」と刻まれ、集落中央にある妙長寺を天正3（1578）年8月に開き、同6年に亡くなった日善の供養塔です。塔は文化13（1818）年10月に同寺27世日了と惣村中と

匝瑳探訪 193

残をとどめています。集落に入り、裸参りが行われる集落中央を通り、諏訪神社を過ぎ林の中を坂方面に進むと、右側に林と畑の境に木々に囲まれた塚が目にとまります。これを「開山塚」と呼びます。開山とは、寺院を開いた僧をいう言葉で、塚の上に石塔がまつられていることでそう呼ばれるようになったのでしよう。

石塔は高さ約90センチ、正面に「当山（妙長寺）開基 本妙院日善聖人」と刻まれ、集落中央にある妙長寺を天正3（1578）年8月に開き、同6年に亡くなった日善の供養塔です。塔は文化13（1818）年10月に同寺27世日了と惣村中と

が建てました。なぜ妙長寺から離れた村境に石塔をまつたのか分かりませんが、日了の考えが反映したためか、と想像が膨らみます。

妙長寺では1800年代には寺子屋が開かれていて、周辺村から通う筆子もいたことでしょう。その通り道の側に塚はあります。日了も師匠となり亡くなると、小高村や周辺の坂村、方田村（現在の多古町方田）など7カ村、世話人を含め50人ほどの人たちが（筆子中）が墓を建てました。坂村、方田村からは約30人が墓石に名を連ねています。

この道には明治元（1868）年10月、水戸藩最後の抗争「八日市場・中台の戦い」での戦死者を塩漬けにしてたるに納めた遺体を村継ぎで運んだとの話が伝わっています。

開山塚はきれいに夏草が刈られていました。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

☎73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

初物のたけのこ抱え隣人は

笑みを浮かべて勝手口に立つ

高橋百合子

春の空水面にうつす代田水

細波立ちて揺らす白雲

大木 洋一

五月晴れ新芽萌え出ていきいきと

それぞれの木にそれぞれの緑

古谷田美子

人生の残り数えて決めしこと

多くなりしや春はめぐりぬ

木下 昌子

十年でひと昔なり震災も

チューリップ揺れ野栄の幸に

小川 一夫

路の端に群生したるたんぼの

ま白き綿毛春風に乗る

川手 芳

初耳のふりして夫の話聴く

身につく技に四十年の歳月

鈴木 志子

川口城司 推薦

祖父植ゑし白藤今や百寿越え

見上ぐる梢よりここだ花房

小川 知至

冬の間失せたと思ひしクレマチス

四十個の花ピンクむらさき

伊橋 良子

俳句

椿 和枝 推薦

酒を酌む切子の青や夏来たる

タンポポの群生ありぬ一本道

岩井 やす

帷子の襟元かたく微笑める

ピアノ弾く豊かな時間夏に入る

安藤 建子

建具屋の汗は木屑の匂ひかな

花蘭けてうす紅寂と牡丹かな

大川 宣子

今年また来たか番の若燕

花びらを一夜限りの髪飾り

椎名 晴江

菜種梅雨犬の散歩も傘の下

川柳

勝又康之 推薦

青空はどこへ行ったのかたつむり

初孫の産声高く梅雨が晴れ

鈴木 志子

ふる回転梅雨の晴れ間の洗濯機

梅雨を浴び新芽爽やか目にしみる

須貝 玉枝

雨上がり虹のごほうび歩が軽い

梅雨最中ママの傘咲くランドリー

伊藤 定子

川口城司 推薦

今爺メン昔は知られたイケメンよ

片付けてアルバム見つけ手が止まる

野仲てつ幹

母が葉のインクの匂いに涙する

熱田真こと

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒2289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73-0080 FAX72-1114

図書館だより

匝瑳市八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

●休館日…毎週月曜日、2日(木)

文部科学大臣表彰を受賞



文部科学省では平成14年度から、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するため、特色のある優れた実践を

行っている学校・図書館・団体(個人)に対し、その実践をたたえ、文部科学大臣表彰を行っています。

八日市場図書館では、おはなし会、図書館たんけん、人形劇を楽しむ会、小学校と中学校への配本サービスなど長年にわたる子ども読書活動への取り組みが認められ、このたび文部科学大臣から「令和4年度子供の読書活動優秀実践図書館」として表彰されました。

図書館ホームページはこちら
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



おすすめの本

『図書室のはこぶね』

名取佐和子/著 実業之日本社

10年前に貸し出されたままだった、ケストナーの「飛ぶ教室」が図書室に戻ってきた。体育祭を控え校内が沸き立つなか、高校図書室を舞台に1冊の本に秘められたドラマが動き出します。

『オオルリ流星群』

伊与原新/著 KADOKAWA

スイ子こと山際慧子が故郷に帰ってきた。太陽系の果てを観測する天文台を手作りで建てるというのだ。慧子に協力することとなった旧友たちは、28年前の青春の日々に思いを馳せるが、高校最後の夏の真実が明らかになり…。